

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
JAPANサッカーカレッジ	平成14年1月9日	中村 勉	〒957-0103 新潟県北蒲原郡聖籠町大字網代浜925番地2 (電話) 0254 (32) 5357																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 国際総合学園	昭和32年10月10日	池田 弘	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025 (210) 8565																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化・教養専門課程	女子サッカー専攻科	平成26年文部科学省告示第13号	—																							
学科の目的	2年間を通して指導者ライセンス保有者による指導を受け、技術・戦術・体力の強化を図る。また、Jリーグクラブであるアルビレックス新潟のアマチュア育成組織として、実際にプロクラブの指導者から技術・戦術を学び、経験を積むことで卒業後に即戦力となる人材を育成する。																										
認定年月日	平成31年3月15日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	昼間	2272時間	400時間	—	368時間	—	1504時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
10名	3名	0名	3名	5名	8名																						
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A(優) B(良) C(可) D(不可) H(保留)																							
長期休み	■夏期休業:8月1日～8月31日 ■冬期休業:12月20日～1月7日 ■春期休業:3月15日～4月5日		卒業・進級条件	■要出席時間数の80%以上出席していること ■必要科目単位をすべて取得していること ■学費等に未納が無いこと																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学生コンシェルジュの設置(担任以外の教員による面談等) 保護者宛に活動報告書を送付(保護者との連携) 個別対応(スクールカウンセラーによるカウンセリング)		課外活動	■課外活動の種類 学校周辺地域清掃活動 地域イベントボランティア参加 ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者にに関する令和3年5月1日時点の情報)																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) サッカー業界(全国のJリーグクラブや地域クラブ) ■就職指導内容 個別面談を実施し、本人の希望職種を確認した上で、インターンシップを実施。 授業内外において面接指導や履歴書作成指導を実施。 ■卒業業者数 : 2 人 ■就職希望者数 : 2 人 ■就職者数 : 2 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本サッカー協会公認キッズリーダー</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	日本サッカー協会公認キッズリーダー	③	2人	2人												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
日本サッカー協会公認キッズリーダー	③	2人	2人																								
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和2年4月1日時点において、在学者3名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者2名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセラーによるカウンセリングの実施		■中退率 33.3%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:有 ご家庭の経済状況から学費の準備が厳しい場合に、全国的に多く用いられている日本学生支援機構の奨学金から、NSGカレッジリーグ独自の制度まで、豊富な奨学金制度が利用可能。(日本学生支援機構 奨学金制度(第一種・第二種)・NSGカレッジリーグ無利子奨学金制度(新卒者・新卒者以外)・NSGカレッジリーグ母子・父子家庭奨学金制度・NSGカレッジリーグ災害奨学金融資制度・地方自治体の奨学金制度・国の教育ローン・NSGカレッジリーグ提携教育ローン・NSGカレッジリーグ学費奨学金融資・その他公的な奨学金・民間団体の奨学金)http://mydreams.jp/scholarship ■専門実践教育訓練給付:無																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:無																										
当該学科のホームページURL	<a href="http://cupsnet.com/about/course/ladies_soccer/">http://cupsnet.com/about/course/ladies_soccer/</a>																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

JAPANサッカーカレッジ 女子サッカー専攻科と㈱アルビレックス新潟が連携し、サッカー業界における優れた人材を育成することを目的とする。JAPANサッカーカレッジ 女子サッカー専攻科が、㈱アルビレックス新潟と連携し、授業や外部実習等の様々な経験を通して優秀な人材を育成することで、在籍する学生自身にとって卒業後の就職先が広がるとともに、新潟県内のみならず日本全体のサッカー業界において即戦力となる人材の育成システムを牽引していくことができるような関係を構築していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

以下の順序により意思決定をする。

1. 女子サッカー専攻科ミーティング ⇒ 2. 教務会議 ⇒ 3. 教育課程編成委員会 ⇒ 4. 女子サッカー専攻科教育課程編成会議 ⇒ サッカー専攻科における授業内容およびカリキュラム決定

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
国枝 晴隆	新潟県下越地区サッカー協会理事	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	①
榎本 恵子	㈱アルビレックス新潟	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	③
小出 隆一	JAPANサッカーカレッジ顧問	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	
中村 勉	JAPANサッカーカレッジ学校長	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	
原 朋洋	JAPANサッカーカレッジ教務部長	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	
池田 保徳	JAPANサッカーカレッジ事務局長	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	
諏訪 雄大	JAPANサッカーカレッジ学科主任	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回(8月・2月)開催予定

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月21日 15:00～16:00

第2回 令和3年2月9日 15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

選手としての能力向上を目指すのではなく、子どもたちへサッカーを教えることも同時に学んだ方が、卒業後の進路もしくはセカンドキャリアに役立つのではないかという意見があったため、カリキュラムに取り入れている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

(株)アルビレックス新潟と連携し、プレーヤーとして、また指導者としての技術・技能を向上させ、卒業後にサッカー界において即戦力となる人材を育成する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業インターンシップ授業において、(株)アルビレックス新潟の指導者より実際に指導を受ける。プレーヤーとして技術戦術を学ぶと共に、(株)アルビレックス新潟が運営するサッカースクールで実習も行う。実際に(株)アルビレックス新潟のプロコーチによるサッカー指導を間近で見て学ぶとともに、実際にプロコーチの指導のもと実習を行いアドバイス・評価をいただく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
地域スポーツクラブ実習	(株)アルビレックス新潟での実習を通し、プロの現場を直接学びその経験をもとに卒業後にサッカー界において即戦力となる人材を育成する。	(株)アルビレックス新潟

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(株)アルビレックス新潟の推薦を受け、公益財団法人 日本サッカー協会が主催する指導者講習会に参加することを諸規定に定める。毎年10月にトライアルを受験させ、6月（前期）・9月（後期）に受講する。教員自身の指導能力向上を目的とするとともに講習会内容を授業や実習等で活用する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本サッカー協会公認キッズリーダーインストラクター養成講習会」（連携企業等：株式会社アルビレックス新潟）  
 期間：令和3年3月20日（土・祝） 対象：マネージャー・トレーナー科教員1名  
 内容：子どもたちに関わる指導者に対し、体を動かすことの楽しさを伝える指導者の養成を目的とし、実技1.5時間、講義1.5時間のカリキュラム構成

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「「新年度を迎えるにあたって、クラス運営・授業・オンライン授業のうまいやり方」オンライン研修（連携企業等：全国専修学校教育研究会）  
 期間：令和3年2月5日（金） 対象：マネージャー・トレーナー科教員1名  
 内容：新年度を迎えるにあたり、改めて学び直すきっかけに。またコロナ禍でオンライン授業を行う先生方にとっても有益な気づきが得られる研修。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本サッカー協会公認B級コーチ養成講習会」（連携企業等：株式会社アルビレックス新潟）  
 期間：（前期）令和3年5月～7月、（後期）令和3年9月～11月 対象：マネージャー・トレーナー科教員1名  
 内容：サッカーの全体像を理解し、基本的な知識・指導力を獲得する講習会

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「令和3年度「教職員研修会」（進路指導セミナー）」（連携企業等：新潟県専門学校協会）  
 期間：令和3年11月11日（木） 対象：マネージャー・トレーナー科教員1名  
 内容：「やる気を出す魔法の言葉PEP TALK」、「専門学校に関わる加速的変化と今後の動向 ～高校生・学生募集・教育業界など～」

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について報告し、各評価委員から、自己点検・評価報告に対する意見を頂き、頂いた意見を今後の学校運営に参考活用する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1. 教育理念・目標
(2) 学校運営	2. 学校運営
(3) 教育活動	3. 教育活動
(4) 学修成果	4. 学修成果
(5) 学生支援	5. 学生支援
(6) 教育環境	6. 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	7. 学生の受入れ募集
(8) 財務	8. 財務
(9) 法令等の遵守	9. 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	10. 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	11. 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した「学校自己点検報告書」について、当校に関係の深い9名の評価委員に評価していただいている。委員会より「サッカーコーチ研究科では実習やインターンシップをより多く取り入れていくことが今後は必要」との意見が出され、インターンシップ先を増やすほか、カリキュラム編成・授業内容・授業時間や期間・担当教員の選定などに役立っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
国枝 晴隆	新潟県下越地区サッカー協会	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	①
神田 勝夫	(株)アルビレックス新潟	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	③
小出 隆一	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	顧問
中村 勉	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	学校長
原 朋洋	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	教務部長
池田 保紀	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	事務局長
田中 泰裕	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	学科主任
竹川 昌彦	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	学科主任
諏訪 雄大	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	学科主任
三ヶ月 宏	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	学科主任
須崎 政幸	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	学科主任
老田 聡孔	JAPANサッカーカレッジ	令和元年11月1日～令和3年10月31日(2年)	学科主任

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )  
9月中旬に学校ホームページ上で公開(URL: [https://www.cupsnet.com/pdf/r02\\_01.pdf](https://www.cupsnet.com/pdf/r02_01.pdf))

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	1. 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	2. 各学科の教育
(3) 教職員	3. 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	4. キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	5. 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	6. 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	7. 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	8. 学校の財務
(9) 学校評価	9. 学校評価
(10) 国際連携の状況	10. 国際連携の状況
(11) その他	11. その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

【ホームページ】・広報誌等の刊行物・その他( )

教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会のほかに別途会議を開催し文書にて(株)アルビレックス新潟へ報告している。

また学校ホームページ上でも公開している。公開時期は学校関係者評価委員会終了後の9月中旬。

(URL: [https://www.cunspnet.com/pdf/r02\\_01gb.pdf](https://www.cunspnet.com/pdf/r02_01gb.pdf))

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程女子サッカー専攻科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			英会話	テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、年間を通じて学生が英語で会話することを目指す。	1通	32	2	○			○			○	
○			コミュニケーションスキル	自己紹介や挨拶等を通じ、コミュニケーションの大切さを知るとともに、基礎的なコミュニケーションスキルを習得する。	1前	32	2	○			○				○
○			OA I (Word)	文章入力から編集の基礎を学び、一般的なビジネス文章(社外文章、社内文章、案内状など)を作成できるようにする。	1通	32	2	○			○				○
○			OA II (Excel)	Microsoft Excelを使用した表計算の基礎を学び、Excel検定3級取得を目指す。	1通	32	2	○			○				○
○			OA III (Power Point)	Microsoft Power Pointを使用し、様々なツールを学びながら効果的なプレゼンテーションをおこなう技術を身につける。	2前	16	1	○			○				○
○			ホームルーム	学科ホームルームの時間を利用し、学生自身が活動内容を報告・発表する。また、他の学生の活動状況を知ること、自分自身の今後の活動に活かす。	2通	64	4	○			○		○		
○			社会人常識マナー&就職実務	自己分析を含め就職とは何かを考えさせるとともに動機づけを行う。就職活動のマナー、面接、スピーチ対策等を実施し就職活動への準備を目的とする。	1通	32	2	○			○				○
○			就職実践	履歴書作成をはじめ模擬面接などの実践を行い、実際の就職活動で活かす。	2前	16	1	○			○				○
○			栄養学	スポーツ選手として必要となる栄養の基礎を理解し、選手生活の中で活かせるように知識を身につける。	1通	32	2	○			○				○
○			トレーナー概論	トレーナーの果たすべき役割、業務を理解する。	1通	32	2	○			○		○		
○			地域スポーツクラブ実習	株式会社アルビレックス新潟と連携し、子どもたちへのサッカー指導実習を実施することで、卒業後に即戦力となる人材を目指す。	2通	32	2			○	○		○		○

(文化・教養専門課程女子サッカー専攻科) 令和3年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			救急法	AEDの使用法や、応急処置の方法を学ぶとともに、日本赤十字社認定赤十字救急法救急員の資格を取得する。	1通	32	2	○			○			○		
○			戦術理論 I	サッカーの原理・原則、プレーの優先順位など講義を通して学ぶ。個人戦術に特化して学ぶ。	1通	32	2	○			○				○	
○			指導実践	日本サッカー協会公認C級コーチの資格取得を目指す。	2通	64	4			○	○				○	
○			ゲーム分析	チーム戦術・グループ戦術など講義を通して学ぶ。また、試合の映像を用いて分析し、競技力向上に繋げる。	2通	32	2	○			○				○	
○			サッカートレーニング	実技トレーニングを通して、サッカーにおける技術・戦術・体力の向上を目指す。	1・2通	1024	64			○	○				○	
○			夏期トレーニング	夏期にトレーニングを通して、技術・戦術・体力の向上を図り、シーズン後半へ繋げる。	1・2通	192	12			○	○				○	
○			冬期トレーニング	冬期にトレーニングを通して、技術・戦術・体力の向上を図り、次シーズンに向けて準備をする。	1通	288	18			○	○				○	
○			実習遠征	公式戦・対外試合・遠征・合宿を通してプレイヤーとしての経験をつむ。	1・2通	256	16			○		○			○	
		○	海外留学	海外インターンシップを希望し学内選考により選抜された場合、海外インターンシップに参加する。その際学年文単位を振り替えることとする。	2通	272	(142)			○		○				○
合計					20科目		2272時間									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必須科目全ての授業単位を取得すること。各授業80%以上の出席率であること。	1学年の学期区分	前後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。